

海域の概要

本湾は、熊野灘に面した南島町に存在する湾で、リアス式海岸の入り江が連続しています。波が静かな内海である湾内では、ハマチやタイの養殖が行われています。



Specification

諸元

湾口幅：2.68 km

面積：9.75 km²

湾内最大水深：53 m

湾口最大水深：53 m

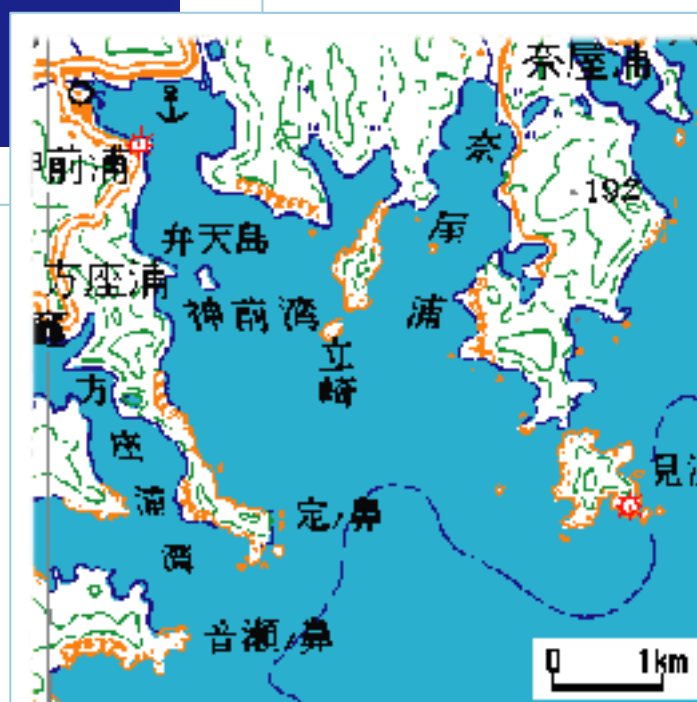
閉鎖度指標：1.17

備考：なし

Location

範囲または位置

三重県度会郡南島町鶴倉半島南端と同町定ノ鼻を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。



環境

神前湾は、東志浦と西志浦が合わさって太平洋に面しています。沖合には黒潮が流れているため、気候も温和です。村山川、伊勢地川、河内川、東宮川などの中小河川が湾奥に流入し、若干の生活排水が流れ込んでいます。湾内には、吉津港やハマチや真珠の養殖施設があり、湾内の水質環境に影響を及ぼしています。

自然

神前湾は、リアス海岸の景勝地となっており、伊勢志摩国立公園に指定されています。

岩礁部には、ホンダワラ類、ワカメ、アラメ、クロメ、ヒロメ等の大型褐藻類の藻場が分布し、湾奥に流入する村山川や河内川の河口には、礫が多い干潟があり、野鳥観察に絶好のスポットとなっている他、初夏には潮干狩りを楽しむ家族で賑わいます。

湾口東部の鵜倉半島沖には、複雑に入り組んだ海岸線の中で、長い時間をかけて波に侵食された岩場が空洞を造っている見江島があり、波によって潮を噴き上げる「見江島の潮吹穴」があります。また、見江島のイワツバメは天然記念物に指定されています。



見江島

文化歴史

南島町には、阿蘇浦、槌柄浦、贅浦、奈良浦、神前浦、方座浦、古和浦の7つ「南島七浦」と呼ばれる「浦」のつく漁民集落と、「竈方」と呼ばれる製塩業を営む8つの「八ヶ竈」集落があり、八ヶ竈には平家落人伝説があります。また、昔は伊勢神宮領でもあったことから、古い風俗・習慣が幾つも残っています。一方、恵まれた海の資源をもとに、釣り堀、ダイビング、オートキャンプ等のマリン・レジャーが盛んです。

湾奥には、倭姫命が天照大御神の鎮座地を探索している時に、長旅の疲れを癒すために休息したとされる「倭姫命腰かけ岩」があります。



倭姫命腰かけ岩の石碑

産業

沿岸・沖合漁業が中心で、各浦々の漁港を拠点として定置網・刺網・一本釣・巻網漁と真珠養殖が行われています。東志湾（奈屋浦・小納戸浦）ではハマチ・タイの養殖施設があり、県下有数の漁獲量を誇っています。

西志湾（神前浦）にある吉津港は、地方港湾で石灰石の積出港になっています。

マリンレジャーのエリアとして、ミヨジ灯台の周辺ではイシダイやヒラメなどの船釣り、子供から楽しめる五目釣り、筏からのチヌ釣りが楽しめます。



チヌ釣り